
神殺しと御主人様

零

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神殺しと御主人様

【Nコード】

N5455K

【作者名】

零

【あらすじ】

「ああ、なんでおれがこんなことになっただんだ」神に異世界に（むりやり）送ってもらった元実験台の少年が異世界でいろいろやります。（やらされるとも言う）「はおれは何もしたくないのに」「ほら、まだまだ仕事が残ってる口答えせずにやれ」

プロローグ

んん、真っ暗だなどこだここは、確か俺は第一五研究所を潰しにいったのにもかしまして捕まった？

いやないない。

むりやり戦場にNo.7に連れて行かれて捕まるとかマジあり得ないし。

混乱して口調がかわってしまったようだ。よしひとまず精神を落ち着けるため寝よう。うん、すばらしいアイデアだ。

「どこがじゃこのくそぼけがー」なんか声が聞こえたけど多分幻聴だな。

「おら、起きろぼけ」きのせい、きのせい

「ほら、さつさと起きろ本当は起きてるのじゃろっ」「すーすー

「…あのーほんとうは起きていらしゃいますよね」「すーすー
プチ

「さつさと起きろーこのぼけなすがー」

ああ、終わった。

なんか起きたら小さい子が泣いていた。

うむ、とりあえず泣き止ませてこいつにこの場所についてきくか。

よし、まずは紳士的に話しかけよう。

「どうして泣いているのかなかわいいお嬢ちゃん」

いい年をしたおっさんがいったら捕まりそうなセリフだな。

「ぐすぐす…半日も起こし続けたのに起きなかった」

…あーおれじゃないはずだ、うん何だか人の話聞いていたらなんか眠くなつてきちゃった。よし、もう一寝入りしてから話をきくか。

「ま」「ま?」「まだ寝るかこのあほたれがー」

ドゴ　くそ、なんという威力、だんだん意識が遠くなつていく。

「さつさと起きんか」

グシャ　分かったこいつは悪魔だ「さつさと起きろこのカスが」このチビひどくね?

「誰がチビじゃー」

グジャ　くそだんだん威力が上がってきている。

「次は死ぬぞ」「はい、すいませんでした」

「最初から起きればよかつたものの、まあいい話が進まんからの」

「話?」「そうじゃ、おぬしをここにつれてきた理由じゃ」

ああ、まさか本当に捕まつてたなんて絶対俺の仲間は助けにこない。

「おぬし、仲間に嫌われておるのか?それと捕まえた訳ではない」

「(たぶん)嫌われているわけがない(はずだ)、ん、おまえテレパシーでもつかえるのか?」

「おや、おどろかんのか」「テレパシーって確かランクDだろ」

「そうかおぬしの世界はそういう世界だったか、つまらん前つれできた奴は腰をぬかしておつたのに」

「そういう世界?」

「そうじゃ、やっと本題に入れたな、私の名前はエトナ、世界と世界をつなぐ神だ」

「神が何のようだおれに復讐でもしにきたのか」

くそ、こいつが神つてことは前殺して力を奪つたあの死神っぽいやつ敵討ちか。

「ちがう、ちがう反対じゃ」

「反対?」

「そうじゃ、だから戦闘態勢を解いてくれ私は戦闘に向いていない

のだから「ふむ、見た目ザコだしね。

「誰がザコじゃー」

「ここはどこだ？おれはどうなった？何のようだ？」

どうだ、この華麗なスルースキル

「このくそが」この子怖い

「まあいい順番にこたえるとな、ここは黄泉の国でおぬしは死んで
そして「まて」「まて」

「どうした？」「おれは吸血鬼を喰わされたから不死身のはずだぞ」

「うむ、まあ簡単にいえばおぬしは世界に干渉しすぎたから世界か
らもういなくなれて世界に殺されたんじゃ」

「まじかよ」「まじじゃ」

「それでな用件なんじゃけれど、おぬしが殺した死神がおるじゃろ
？」鎌とか持ってたけど本当に死神だったんだあれ。

「奴はあまりに長く生き過ぎて狂い暇潰しのため多くの世界に干渉
し壊していった元最上神の一人だったのじゃ、だが奴は自ら干渉し
た世界の一つで殺されそして力のほとんどを奪われた、そして奴ら
の行動に反対していた我らがそのすきに残った奴らを殺したのじゃ」

「その干渉された世界ってもしかして」「おぬらの世界じゃ」

「ふざけるな、神の暇つぶしって理由だけでおれらは人間を捨てさ
せられ、あいつらは死んでいったっていいのかよ」押さえきれない
怒りが心の底から湧き出でくる。周りの空間がおれの魔力で充満し
ていく。

「そうじゃ、だが最後まで落ち着いて話を聞くのじゃ」

「その話が気に入らなかつたらおまえら殺すぞ」

「そのくらい覚悟しておる、その後、我らはおかしくなってしまう
た世界をできる限り直し失われた命もだいたいとりもどさせたのじ
ゃ」「じゃあ

「もちろんおぬしの友達も生き返っておるぞ」

「ほんとうか？」

「もちろんじゃ」

「ん、そしたらなぜ俺は死んだんだ？」

「世界に嫌われたものを助けるのはむりだからじゃ」

つまりここで一生寝て暮らせるということか。すばらしいことだ。

「それに多くの神を殺したことで人材不足でおぬしに神としてはたら「断固として拒否する」「おぬしに拒否権などないわ」

なぜだ、このままではおれの毎日寝て暮らして有意義な生活を送るという壮大な夢が

「小さい夢じゃな」「お前の背よりはでかいわー」はっ つい反射で

「おぬし、よっぽど死にたいらしいな」

ああ、終わった。

異世界にin(前書き)

人物紹介

主人公

中肉中背 黒髪黒目の中性的な顔立ち。
名前が出てこないのは実験台なのでつけられなかったため

異世界にin

side、神殺し

やあ、朝起きたら見知らぬ森で寝ていたという経験は皆あるかな？
おれがこの状況で言いたい事はたった一つ「エトナいつか殺してやる」

さて、おれとしたことがすこし混乱してしまったようだ。
とりあえず周りを確認してみよう

前 木木光る玉木木木
後 木木木木木木木木
左 木木木木木木木木
右 木木死体木死体木

よし、エトナを殺しにいこう。

《だめですよ、そんなことしちゃ。》

おお、光る玉がしゃべった。

「何お前」

《エトナ様から伝言とあなたのサポートをするように頼まれたんです》

「でんごん？」

《はい、えーと「前の世界で死んでしまった分残りの寿命他の世界で遊ばせてやる。その代わりそこで人材不足を解消するためおぬしの半身となる奴を見つけてこい。死んでもお土産を忘れるな。」だそうです、エトナ様はお優しいですね。》

「どこがだ、だれがどう見ても最後の要求のために送ったんだろ。まあいい、この世界では平穩に暮らそう。」

「サポートってなにしてくれるんだ（どうせこいつもエトナと一緒に役立たずなんだろうな）？」

《何か悪口考えてませんでした？まあいいです私がどんなに役に立つか見せてあげましょう。まずはあなたの服です。》

「おれの服？いたってふつうだが？」

《あなたの服は研究所で渡されたものでしょう？そんなの目立って仕方ありませんのでこちらの服に着替えて下さい》

黒の上下とロングコートかどうでもいいけどなんで背中に穴があいてるんだ？

《あ、背中の穴に羽を通して下さい》

羽？そんなの生えてる訳が……あった。

「どういう事だこれはなんで俺の背中にはねが生えてるんだ」

《それはあなたは前の世界で多くの悪魔や天使、妖怪等を喰べたでしょう。》

「喰べたじゃなくて喰わされたんだよ。神を殺すのに必要だとかいって。」

《そのせいでこの世界ではあなたは人間でなくて使い魔ということになっていきます。人形は高く売れるので密猟者には気をつけて下さい。》

最悪だ。だんだん平穩から遠ざかっていつている。

《あと、あなたが使っていた武器と収納のための魔道具でエトナ様から渡されたのは終わりです。》

「ええと武器は五つかという事はこの指輪が収納用か……どうやって使うんだ」

ん、何だこの本は「取扱説明書」

絶対エトナの手書きだな

「指輪をものに押し付けて物の名前をいい出すときも名前をいう」
書くのがめんどくさくなっただな。

《最後にエトナ様から追加の伝言です》

「なんだ」

《「おぬしの羽は前使っていた翼型の魔道具と一緒にじゃ、あとその
辺りで一番魔物と密猟者が出るところに送っておいたからのせいぜ
い頑張れ」だそうです。それでは私はここでさようなら》

「あ、逃げやがったくそエトナめかえったら覚えてろ」

side . ご主人様

「なあ、あんた今夜暇？一緒に遊びにいこうぜ」

「今は任務中だ静かにしている」

ああ、面倒くさいこんな奴がいるなら下級生の任務の引率なんか引
き受けるんじゃないか。

さっさと昨日見えた光とやらを調べてかえろ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5455k/>

神殺しと御主人様

2010年10月28日06時32分発行